



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4254 号 2018.3.12 発行

<震災7年>復興への祈り 共に

読売新聞 2018年03月12日



鍵屋教授（左奥）の話を聞く参加者（高松市で）

- ◇県内でセミナーや集い
- ◇減災へ「共助」必要性学ぶ

東日本大震災から7年となった11日、県内でも減災を考えるセミナーや追悼の集いが各地で開かれた。参加者は災害への備えを改めて誓い、犠牲者の鎮魂と復興への祈りを共にした。

東日本大震災や熊本地震を教訓に災害への備えについて学ぶセミナーが、高松市内であった。「減災には日頃からの住民同士のつながりが不可欠」との講師

の話に、マンションの管理組合関係者ら約60人が耳を傾けた。

地域で防災活動を進めてもらおうと、集合住宅の管理などを請け負う穴吹ハウジングサービス（本社・高松市）が主催。跡見学園女子大の鍵屋一教授が講師を務めた。

鍵屋教授は、東日本大震災を例に「高齢者が死者の6割を占め、障害者の死亡率は2倍だった」と報告。「家族がいない人は、近所の人とのコミュニケーションがないと助かりにくい」と共助の必要性を訴えた。

とくに集合住宅の減災について「『誰かがやってくれている』と人任せになりがち」と指摘。▽日頃からの顔の見える関係づくり▽防災計画や居住者リストの作成▽簡易トイレや水、食料の備蓄——などを進めるよう呼びかけた。高松市内の集合住宅に住む50歳代の男性は「居住者リストなどは作っていないと思う。全国の事例に倣い、見直しを進めていきたい」と話していた。

児童書が繋ぐ縁 祈りの言葉、兵庫から東北の海に

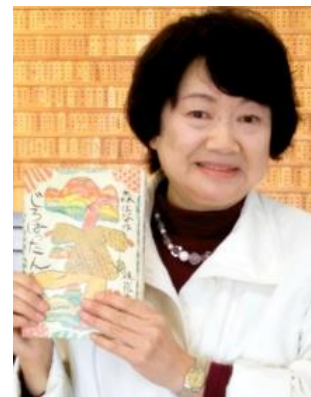
神戸新聞 2018年3月11日



被災地の現状を考えながらタイサンボクの葉にメッセージを書いた児童＝2月27日、姫路市飾磨区今在家、津田小学校被災した自宅から無傷で見つかった「じろはったん」を手にする永野泉さん（本人提供）

「心から笑顔が戻る日が来るよう願っています」。東日本大震災から7年を迎えた

11日、福島県相馬市の海岸で、姫路や高砂など兵庫県内の小学生らが鎮魂や復興のメッセージを書いた約8千枚の木の葉が海に流された。東北と兵庫を結ぶ取り組みの種になったのは、津波にのまれた家から奇跡的に無傷で見つかった朝来市出身の児童文



作家・森はなさんの代表作「じろはったん」だった。(小林良多)

震災から丸7年の節目に木の葉へメッセージを書いて海へ流す女性＝11日午後、福島県相馬市(永野さん提供)

あの日、宮城県石巻市の沿岸部で弁当店を営んでいた永野泉さん(63)の自宅兼店舗は巨大な津波に襲われた。夫婦とも命からがら助かったが店の再開は絶望的だった。



10日後、ようやく戻った自宅は天井まで濁流にのまれ、家財道具は散乱。100冊以上あった本は泥まみれだったが、たった1冊、がれきの上に誰かが置いたかのように、きれいなまま見つかった本があった。

1973年、兵庫で生まれた児童書「じろはったん」。20年前に出会ってから、永野さんが一番大切にしてきた本だった。

物語は戦時中の但馬が舞台。知的障害がある青年じろはったんは村人らに温かく見守られて暮らしていたが、親友の「新やん」が戦死。竜宮城へ行ったと聞かされたじろはったんは、新やんの名を書いた紙をタイサンボクの葉に縫い付けて海へ流す。

永野さんは「弱者であるじろはったんをいたわる、周囲のさりげない気遣いや知恵に感動した。今こそ被災地の子どもたちに読んでもらい、相手を思って行動する大切さを感じてほしいと思った」と振り返る。

福島県へ移住した後、地元の小学校などに200冊を寄贈。さらに2013年、鎮魂の言葉を書いたタイサンボクの葉を海に流す追悼行事を始めた。

高砂市の森はな顕彰会(福本陽子会長)と交流が始まり、同市の小学校も参加。朝来市にある森さんの母校も協力した。今年は姫路市内にも広がり、小学校や知的障害者施設などが参加した。

2月下旬、同市の津田小学校では4～6年生410人にタイサンボクの葉が配られた。「亡くなった人はどんな願いを持っていただろう」「被災者は十分頑張っている。その上で励ます言葉って何だろう」と教師が語りかけ、児童は復興に向けて貢献できることや自分の夢を書き記した。

今年は兵庫県内からの計5千枚に宮城県や福島県の小学生らの分も加わり、計8千枚が永野さんの元に集まった。

11日午後2時46分、相馬市の慰霊碑のそばで震災遺族ら約300人が海に葉を浮かべた。過去の参加者の中には、津波で夫や孫を失って以来、初めて海沿いにまで足を運ぶことができた女性もいたという。

永野さんは「じろはったんのように、胸にため込んだ気持ちを葉に書いて流すことで、被災者の苦しみが少しでも軽くなればと願っている。遠く兵庫から応援があることも心強い。慈しみの心を描いた本の力、作者の遺志に動かされているように感じている」と話していた。

性犯罪絵本に男性被害例も 大津のNPO、相談呼び掛け 京都新聞 2018年03月11日

犯罪に巻き込まれた人たちからの無料相談などに取り組む大津市のNPO法人「おうみ犯罪被害者支援センター」は、恐喝や痴漢など犯罪被害の事例をまとめた、知的障害者や子ども向けの絵本「たすけて」の改訂版を作った。昨年改正刑法施行を受け、男性の性犯罪被害を新たに盛り込み、事件に遭った場合は同センターなどの専門機関に相談するよう呼び掛けている。

性犯罪を厳罰化した改正刑法は被害者に男性を含めた。「ボクは、だれもいないところでパンツをおろされて、体をさわられました」「ずっとだまってガマンしていました」などと平仮名を多用した文章に手描きのイラストを添え、犯罪事例を分かりやすく伝えている。

中には被害を周囲に打ち明けられなかったり、自分を責めたりする人も少なくない。そんな心の葛藤も描き加え、当事者が声を上げるのを後押ししている。

おうみ犯罪被害者支援センターが作った絵本「たすけて」の改訂版（大津市）

「たすけて」は知的障害者向けに2014年に作成したところ、内容が平易なことから児童らが犯罪被害を正しく理解する教本としても好評で、全国から問い合わせがあった。残部がなくなったため改訂版を企画した。

B5判、34ページ。千部作成し、県内の共同作業所や特別支援学校に配布予定。絵本を読み聞かせしたDVDも300枚作った。

同センターは「特に性被害の場合は自責の念に駆られる人が多いが、被害者は悪くない。勇気を出して相談してほしい」と話す。問い合わせは同センター077（527）5310。



自分の全て批判する「声」が 統合失調症に苦しんだ日々 朝日新聞 2018年3月12日

統合失調症と診断された長女を長期監禁して衰弱死させたとして、両親が逮捕される事件が大阪で起きました。事件の背景に、病気への無知や偏見があったのではないかと考える人が少なくありません。誰にでもなる可能性があり、100人弱に1人が発症する病気です。大学生の時に発症した大阪府の男性（34）に当時の話を聞きました。

大学に入学したのは、2002年の春。「楽しい学生生活」を夢見ていましたが、違ったといいます。

「何とか合格した」という引け目から、授業が難しいと「やっぱりだめだ」と落ち込みました。入学半年後から下宿を始めると、下宿生のグループがすでにできていて、友達もうまくできなかったそうです。

次第に、下宿先に引きこもりがちに。ひどい二日酔いと寝不足が重なったような疲れが一日中続き、歯を磨き、顔を洗うことさえできなくなりました。

同時に、「声」が聞こえるようになりました。性別も年齢も様々な知らない人が数人、一日中、自分のそばに立ち、ささいな行動までずっと見ていて、その全てを批判してきました。

食べようとする「大学に行ってもいないのに、何を食べているんだ」「何もしていないのに、食うだけ食うな」と嘲笑されます。

どう動いても批判されるため、極力動かないようにしていたといいます。「意識がない、寝ている時が一番幸せでした」

大学2年で、親が異変に気づき、病院にすぐに連れて行かれ、「統合失調症」と診断されました。薬を飲むと、身の回りのことができるようにはなりました。

でも、病気だと認めたくなかった。「認めてしまえば、『精神疾患の人』というレッテルを貼られ、二度と抜け出せないと感じた」。「これからどう生きればいいのか」。将来に絶望して自殺を図り、閉鎖病棟に入院しました。

退院後、家の風呂掃除をしたり、診療所のデイケアで同じ立場の人と話したり。自分ができることや、社会との接点を、焦らないように一つずつ増やしていきました。幻聴はいつのまにか消えていました。

休学と復学を繰り返しながら大学を卒業。就労支援を受け、今は月1回通院をしながら、大阪のNPOでフルタイムで働いています。男性は「歯を磨いたり、顔を洗ったりするこ

とさえできなかった発症した当時と比べれば、たいていのことは幸せ。病気になったからこそ、人間として本質的なことに気づけた」と話します。

寝屋川の事件で亡くなった女性は同年代です。男性は「ぼくが幸運だったのは、親がいろいろ調べて、ぼくの状態をわかろうとしてくれたこと。発症した子と同じ目線に立ち、理解しようとしてくれる大人が周りにいるかどうか、大きな違いを生むと思う」と話します。**社会の偏見に悩む家族**

統合失調症になった子どもの親は、どんな思いを抱いているのでしょうか。

大阪府精神障害者家族会連合会の木村瑛子副会長(73)は、長女(40)が高校3年で不登校になり、20歳で統合失調症と診断されました。

「育て方が悪かったのでしょうか」。医師に真っ先に聞き、否定されてほっとしたといいます。長女は「誰かがついてくる」などと言って、外

統合失調症って、どんな病気?

症状や経過は個人差が大きい。幻聴や妄想がない人も



およそ1000人に1人の割合で発症

10代後半から20代で多く発症



クスリ + **日常生活での注意**

- 睡眠をたくさんとる
- ストレスをためない
- 疲れる前に休む など

薬を飲み続けながら日常生活に注意して症状をコントロールしていく病気です

高血圧症など似た慢性疾患なのです!

橋本亮太・大阪大准教授 (精神医学) の話

統合失調症の症状は大きく三つです

- **幻聴や妄想**
幻聴は「お前は馬鹿だ」などと本人を批判する内容や、「今トイレに入りました」などと本人を監視する内容が代表的。妄想は「警察が自分を尾行している」といった被害妄想などです
- **意欲低下や感情表現の乏しさ**
- **記憶力や理解力などが落ちる 認知機能障害**
患者さんには、幻覚や妄想が真実と感じられ、自分が病気だと認識できない場合もあります。周囲が気づき、早く受診することが大切です。研究や治療は進んできています。症状をコントロールできれば、通常の生活ができます



「マンガでわかる!統合失調症」(中村ユキ著、日本評論社)から

家族や本人の相談先

全国精神保健福祉会連合会

精神疾患を持つ人の家族が作った全国団体

03 - 6907 - 9212

水曜午前10時～午後3時。正午～午後1時は除く。精神疾患の家族がいる人が相談員

各都道府県連も相談を受ける

<https://seishinhoken.jp/profile/groups>

出が困難に。独り言を言いながら、家の枕やシーツをカッターで切りました。受診を拒否した時期もありました。

木村さんは、長女の発症後も仕事を続けました。「親が自分の時間を持ち、精神的に安定することが大切だと思う」。家族会に入ると「同じ悩みを持つ人と話せて、気が楽になった。病気への知識も増えた」といいます。長女は今、家族と一緒に外出できるようになっています。

木村さんは「精神疾患への社会の偏見がなければ寝屋川の事件は起きなかったのではないか」と指摘します。同会の相談電話には、偏見の悩みが多くかかってくる。子どもが統合失調症になると「うちの家系には（精神疾患の人は）いない」と義理の親に言われたり、「育て方のせい」と近所に根拠のないうさをされたり。

同会の男性（78）は、子どもの精神疾患を知った知人に「まわりには言わないでおきます」と言われました。男性は「善意でしょう。でも、その言葉に、『精神疾患は隠すもの』という社会の偏見が見える」と話します。

木村さんは「寝屋川の事件は行き過ぎですが、精神疾患がある家族をまわりに隠し、ひっそりと暮らす家族は今も少なくない。なぜ、そうなのかを考えて欲しい」と話します。

事件の概要

統合失調症と診断された長女（33）に十分な食事を与えずに死なせたなどとして、大阪地検は1月、大阪府寝屋川市に住む両親を監禁と保護責任者遺棄致死の罪で起訴した。起訴状や取材によると、長女は小6で学校を休み始め、中学は通っていない。両親は少なくとも07年から長女を自宅のプレハブの小部屋に監禁したとされる。小部屋は、内側から開けられず、監視カメラが設置されていた。長女は昨年1月ごろから、急激にやせ衰えたが、両親は、小部屋の室温を適切に管理したり、医師に診せたりしないまま、昨年12月に凍死させたとされる。発見時の長女の体重は19キロだった。

寝屋川の事件をきっかけに、統合失調症の取材を始めました。どんな病気なのか、そして発症した人や家族が感じている生きづらさについて、自分自身が無知だったことを痛感しました。今の世の中に、どんな問題があり、今回の事件のような悲劇を再び起こさないために、何が必要なのか。

病気への偏見、支援制度、医療のあり方なども含めてご経験やご意見をお寄せください。
(長富由希子)

優生手術で相談センター 北海道が窓口開設 産経新聞 2018年3月12日

北海道は12日、旧優生保護法（昭和23～平成8年）下で障害者らへの不妊手術が繰り返された問題で、問い合わせ窓口となる「相談センター」を開設した。保健師1人を含む職員計2人が専従。希望に応じて道立の各保健所でも職員が対応する。

手術を受けた本人や家族たちから、個人名記載資料の有無や情報開示請求の手続きの相談などを受け付け、支援を強化することが狙い。個人名記載資料に基づいて作成したデータベースに該当しない場合でも、道は関連資料で可能な限り特定につなげたい考えだ。

道内で本人同意がなく手術を強制されたのは2593人とされ、都道府県別で最多だった。

フリーダイヤル0120・031711で、対応時間は平日午前8時45分～午後5時半。ファクスやメールなどでも受け付ける。

不正請求 障害福祉事業所が2800万円 指定を取り消し 大津 / 滋賀

毎日新聞 2018年3月11日

大津市は9日、NPO法人「障害者の就労を支援する会」（梅澤茂生理事長）が運営する事業所「ケアステーション日和」（同市別保1）が虚偽の申請で指定障害福祉サービス事業

所の指定を受け、不正請求を続けたとして障害者総合支援法に基づき同日付で指定を取り消したと発表した。

リカレント教育推進など求める報告書 経済産業省研究会

NHK ニュース 2018年3月12日

人生100年時代に対応した人材育成について検討している経済産業省の研究会は、個人が生涯にわたって活躍できる環境を整備するため、社会人が大学で学び直す「リカレント教育」の推進などを政府に求める報告書をまとめました。

経済産業省は、外部の有識者による研究会を設けて、人生100年時代とされ個人の働き方が多様化する時代に対応した人材育成の在り方を検討し、このほど報告書をまとめました。

報告書では、個人が生涯にわたって学び、活躍し続けられる環境を整備するため、政府が必要な支援策を充実させることが重要だと指摘しています。

具体的には、社会人が大学で学び直す「リカレント教育」の推進に向け、こうした制度を設けている企業への助成策を検討することや、結婚や出産をきっかけに仕事から遠ざかった女性の復職を後押しする講座の開発を支援することなどを求めています。

また、個人が勤め先の会社以外でも新たな知識や技能を習得できるよう、副業や兼業を促す施策についても進めるべきだとしています。

この報告書は12日に開かれる研究会の会合で正式にまとめられ、経済産業省は、これを踏まえて関係省庁とも連携しながら政策を検討していく方針です。

駅のホームドア、神戸でも続々設置へ

岩田恵実

朝日新聞 2018年3月12日

神戸市営地下鉄西神・山手線三宮駅に設けられたホームドア＝神戸市中央区

神戸市営地下鉄西神・山手線三宮駅で3日、ホームドアの運用が始まった。視覚障害者らが巻き込まれる事故を防ぐため、各地で運用が進んでいる。兵庫県内の状況はどうなっているのか。

5日午後4時ごろ、西神・山手線三宮駅。ラッシュ時ではないが、ホームには10人ぐらいの列ができています。



「ポロン、ポロン」。電車が止まると低い電子音が鳴り、新たに設置されたホームドアが左右に開いた。続いて電車のドアが開き、利用客が乗り込むと、次は電車側が先に閉じる。「ピロリン、ピロリン」。高い音が響き、ホームドアが閉まった。

停車時間は50秒ほど。現在はホームドアを車掌が手動で開閉をするため、設置前と比べて約10秒長くなった。市は、電車のドアと連動してホームドアを自動開閉する新型車両の導入を2023年度をめどに進めるといふ。

利用客からは好評のようだ。毎日、同駅を利用するという子連れの30代女性は「子どもは電車が好き。走り回って危ないので、ドアが出来て安心」。通学で利用する高校生も「電車を待つ間、立ちくらしすることがよくある。違う駅にも付けてほしい」と話す。

ホームドアの設置が進むきっかけは、16年に起きた転落事故。東京都と大阪府で続け



て視覚障害者が犠牲になった。国土交通省は同年、1日あたりの利用者数が10万人以上で、ホームに設置できるだけの幅がある駅などは、20年度までにホームドアを整備するといった対策をまとめた。

県内では、JR西日本が利用者10万人以上の三ノ宮・神戸・明石・姫路の4駅と、転落・接触事故が多い西明石駅（利用者約6万人）に設置を予定。神戸市は地下鉄西神・山手線で、三宮駅を皮切りに、23年度までに全16駅に設置する方針。また阪急電鉄は、神戸三宮駅での20年度中の設置に向け、神戸市などと協議を進めている。

少女の心埋めた風俗「その時だけは大事にしてくれる」 神戸新聞 2018年3月12日 リビング。おしゃべりが飛び交う



児童養護施設「尼崎市尼崎学園」（神戸市北区）の副園長、鈴木まや。施設を支えるベテランが「敗北」と呼ぶ出来事があった。

夜遅く、尼学の電話が鳴った。JR道場駅の公衆電話からだった。かつて尼学で過ごした少女。声がうまく聞き取れない。すぐに駅に向かった。少女は無人駅の傍らでうずくまっていた。睡眠改善薬を大量に飲んでいて、ろれつが回らずフラフラ。連れ帰り、寝かせた。

少女が児童相談所に保護され、尼学に来たのは小学生の時。学校には通っていなかった。両親は体や心に複数の病と障害を抱えていた。部屋の壁はどれもカビが生え、衣類やごみ、食べ物が山積み。環境は劣悪だった。

それでも、少女は家に帰りたがった。当時の尼学は、大人数が集団生活する大舎制。何度も抜け出した。定時制高校に進学が決まり、中学卒業と同時に退所した。尼学に電話があったのはその3、4年後のことだ。

少女は風俗で働いていた。派遣型のデリバリーヘルス。少し眠って落ち着くと、泣いた。「自分が嫌い」「こんなお金は汚い」。でも、睡眠改善薬が抜けると知らない間に帰っていた。そしてまた、フラフラで戻ってきた。何度も何度も繰り返した。やめたいのにやめられない。理由を漏らした。

「だって、その時だけは、みんな私を大事にしてくれるから」

鈴木はがく然とした。かつて少女がいた間に、自分たちが大切な存在になれなかった。大切にされていない感覚を埋められないまま、少女を送り出してしまった。それを埋める手段が風俗だった。

「私たちがあの時ちゃんと埋められていたら、風俗に行く前に来てくれたんじゃないか」

その後、少女は入院した。（敬称略）（記事・岡西篤志、土井秀人、小谷千穂、写真・三津山朋彦）

平昌冬季パラリンピックが始まり... 福井新聞 2018年3月12日

平昌（ピョンチャン）冬季パラリンピックが始まり、日本勢が早速活躍している。メダル第1号となった村岡桃佳選手の滑りをテレビで見た。とてもまねできない、と脱帽した▼椅子のような器具に、足を前に投げ出す形で座って滑り降りる。器具に付いているのは細いスキー板が1本。バランスを崩せば簡単に倒れる。案の定数人が途中で転倒していた▼コースは先の五輪と同じというから、スピードだって怖いぐらいの速さだろう。でも、村岡さんはダイナミックに滑りきった。よほどの練習を積んできたのに違いない▼パラリンピックは第2次大戦後の1948年、ロンドンで開かれた障害者スポーツ大会が原点とされる。88年のソウルからは五輪と同じ都市での開催となり、その性格を変えた▼「福祉」から「ス

ポーツ」への転換である。注目度が上がるにつれて参加国が増え、競技性も高まった。選手はいまや「アスリート」の呼称こそが似合う▼彼らは心身に不自由なところがあっても、当方のような凡人をはるかに超える能力を発揮する。「障害者」なんて、負のイメージを背負う言葉で呼ばれる筋合いはない▼そういえば「障害者権利条約」の精神は「足が不自由なこと」が障害ではなく「足が不自由なために一人で旅行できないこと」が障害だ、と考えるところにある。パラリンピックを見ていると素直に同意できる。

社説 平昌冬季パラリンピック 限界に挑む雄姿に声援を 毎日新聞 2018年3月12日
障害者スポーツは、身体障害者のリハビリや社会復帰のための手段として普及が図られてきた。

だが、障害者スポーツの祭典であるパラリンピックは今や、世界最高のスピードと技術を争う競技大会へと姿を変えた。

韓国・平昌で始まった冬季大会では、最高速度が時速100キロを超すアルペンスキーの滑降や、激しい接触プレーのアイスホッケーなど序盤から熱戦が続く。

今大会は、冬季では史上最多の49カ国・地域から約570選手が参加し、6競技80種目で争っている。

平昌冬季五輪では日本勢の活躍に国内が沸いた。パラリンピック日本代表38人の健闘も期待したい。

パラリンピックが高いレベルの競技として発展するにつれて多様化したのが選手のあり方や支援だ。

リオデジャネイロ夏季大会の陸上男子走り幅跳び銀メダリストで、今回スノーボード男子代表になった山本篤選手のようなプロが誕生した。また、競技選手として雇用する企業も増えた。

埼玉県深谷市では障害児のスポーツ用具に助成する基金がある。この制度を使って競技を続けて日本代表になった選手がいる。インターネットで道具の製作費や遠征費の寄付を呼びかけて集めた選手もいる。

支援の広がりには、より多くの人パラリンピックを競技スポーツにとらえ、裾野拡大の必要性を考えるようになったためだろう。

一方で課題はある。パラリンピック出場経験がある選手らで作る日本パラリンピアンズ協会の調査によると、3割の選手が、企業と契約を結ぶといった支援を受けていない。

4月から障害者の法定雇用率が引き上げられる。この見直しをパラリンピック選手の経済基盤を改善する契機にしたい。そして、世界と戦う環境作りを少しでも進めたい。

観戦する側もパラリンピックをもっと身近な競技スポーツとして触れ合おう。東京都が昨秋行った調査では、1年間にスタジアムなどで実際に障害者スポーツを観戦したことのある人は3%に満たなかった。

失った機能を代替する用具を駆使し、全力で限界に挑む姿には圧倒される。大会はまだ始まったばかりだ。大きな声援を送り続けよう。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行